

信州大学知の森基金を活用したグローバル人材育成のための短期学生海外派遣プログラム
実施状況および成果

プログラム名	グローバル人材育成のための欧州教育視察プログラム	
学部・研究科名	教育学部	
実施期間	2016年11月6日～11月13日	
研修先(国・都市・施設名)	オランダ(デラフト、デン・ハーグ)、イタリア(レッジョ・エミリア)	
参加者数：5名		知の森基金からの支援者：5名
プログラム概要	本プログラムは、教員志望の学生に海外の先進的な教育実践に触れる機会を提供することで、グローバルな視野をもった人材を育てるという意図から、オランダおよびイタリアの学校(幼稚園、小学校、中学校・高校の段階に当たる)と児童館等社会教育施設を訪問した。	

実施状況・成果

本プログラムは、教員志望の学生に海外の先進的な教育実践に触れる機会を提供することで、グローバルな視野をもった人材を育てるという意図から、オランダおよびイタリアの学校(幼稚園、小学校、中学校・高校の段階に当たる)と児童館等社会教育施設を訪問する研修旅行を企画した。

11月7日(月)にはオランダ・デラフト市でオルタナティブ教育の代表的な実践を行っているParkschoolとFreinetschoolを訪問し、それぞれに1970年代から続けられている生徒主体の学習モデル(アクティブ・ラーニングの先駆け)を見学した。11月8日には地区随一の進学校でアメリカのダルトン方式を採用するダルトン・デンハーグ高校を訪問し、個別学習による自律的な学習方法と、オランダの高校生の進路や進学の事情を学んだ。イタリアでは、11月10日にレッジョ・エミリア・アプローチを紹介するセンターを訪れ、アプローチの概要に関する講義を受け、ワークショップに参加した。また、市立図書館を訪れ、幼児期から青少年期までの縦のつながりを模索する現場を見学し、専門員と意見交換を行った。11月11日はレッジョ・エミリアの教育を支えるリサイクルセンターや幼稚園を訪れ、環境と幼児教育の連携について学んだ。

今回のプログラムを通じて、学生は海外の教育の現場に触れ、学生たちがこれまでに経験してきた日本の教育について比較しながら振り返ることができた。学生たちにとっては、自分の専門とする分野(教育)において海外の事例を目にすることができ、大変意義のあるプログラムだった。学部および国際交流課には、事前準備の段階から多くのご支援をいただき、安全に渡航することができた。なお、1月7日には東京で、1月20日には教育学部で報告会を開く予定にしている。

学生の声①ー教育学部 学生

学生のうちに広い世界を見てみたいと思ってましたが、初海外・初教育視察は何もかも新しい体験ばかりでした。中でも印象に残ったのは、「やらされる教育」ではなく「やりたいことを伸ばす教育」が重視されていたことでした。ダルトンスクールでは自分の課題を好きな場所で取り組めるという時間があり、その自由さに驚きました。だからと言って、すべてを自由にするのではなく一週間という期間や大まかな内容、クラスで取り組むテーマなどの「枠」は構築されていました。広い「枠」の中での自由を保障することで子どもたちは自分の興味や関心に基づいて主体的に取り組んでいました。今回のツアーに参加し、学校教育はもちろん、生活する環境の違いなど何もかもが新しく、新鮮でした。学校参観や皆さんのお話の中に新しい見方や発見がたくさんあり、とても勉強になりました。

学生の声②ー教育学部 学生

私は今回の視察で、海外の教育を自分の目で見るというこの上ない素晴らしい経験をさせていただくとともに、“自分はいくら何を学ぶべきなのか、学びたいのか？”という問いのヒントにたくさん出会うことができました。今回のフレネ教育、ドルトン教育、レッジョ・エミリアアプローチの視察にあたり、事前にどんな質問をしようか考えていたのですが、どの教育についても概要を読んで納得してしまうばかりで質問したい事がなかなか出てきませんでした。しかし、実際の現場を見学すると、聞きたい！知りたい！と思うことだらけで、百聞は一見に如かずという言葉の意味を実感しました。

授業見学の様子



レッジョ・エミリアの指導法ワークショップ

